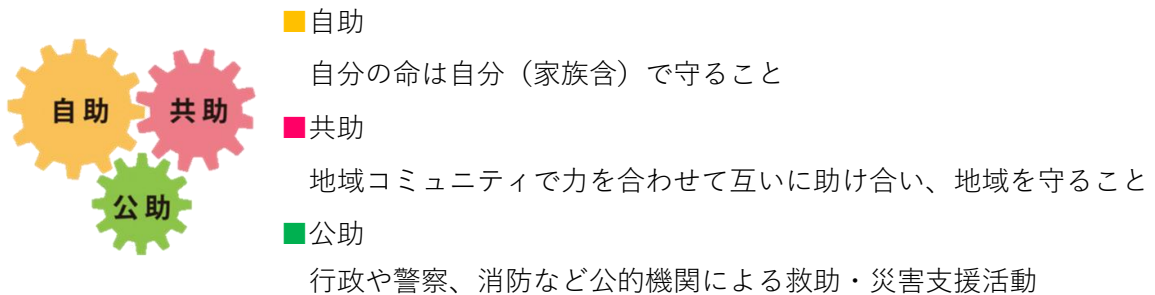




自助から共助へ、ともに助け合える地域づくりを

いつどこで起こるかわからない災害。そのときの被害を最小限に食い止めるには、ひとり一人の「備え」が必要です。いざという時のために、家庭をはじめ地域において防災意識向上と防災知識の普及を図りましょう

災害時に必要な3つの役割



もし、新型コロナウイルス等の感染症が流行している中で災害が起きたら…あなたは感染症対策をしながら避難することができるでしょうか？

災害発生時に危険な場所にいたら、まず危険を回避し躊躇なく安全なところに避難することとは「いのち」を守るための大原則です。

基本的に避難所は弱者優先のため、安全が確保されるのであれば、在宅避難や親戚、友人宅への避難が推奨されています。

特に新型コロナウイルス感染症の蔓延が懸念される今、不特定多数の避難者が集まる従来の避難所では、3密（密閉、密集、密接）を避けることは難しく、各自治体では新たにホテルや旅館を避難所として開設できるよう様々な対策を進めています。

これまでの災害教訓から「自助」「共助」「公助」の割合は7：2：1と言われているように、行政が全ての被災者を迅速に支援することは極めて困難で、被害を最小限に食い止めるためには、災害が起こる前から住民ひとり一人が正しい知識を身につけ、自助から共助へと繋げていく地域コミュニティでの取り組みがこれからは特に必要です。

例えば感染症対策として、非常時持出袋の中にマスクやアルコール消毒液はもちろんのこと、体温計や石鹸、ビニール手袋を加えることなどは、最低限自分ができる備えのひとつですが、いのちを守る行動は、その時に自分がいる場所や家族構成、環境によって変わってきます。

日本赤十字社は、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下においても人間のいのちと健康、尊厳を守ることを使命に活動しており、災害救護をはじめ救急法等講習会や防災啓発プログラム研修会など県内各地域で展開しています。

些細なことでも、気づくことで予防できることがあります。あなたも私たちと一緒に今からできることを始めてみましょう。